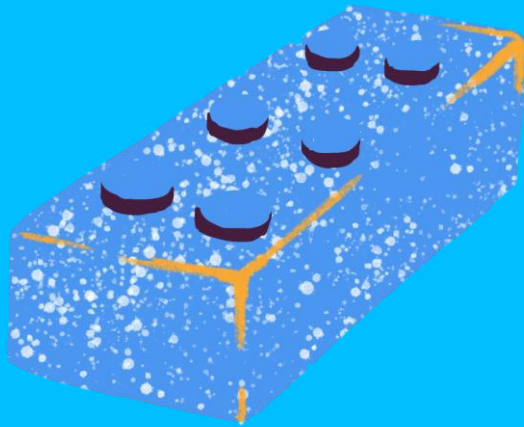


会議のニューノーマル
会議の生産性を
飛躍的に向上させる
10のアイデア



mct

会議の生産性を飛躍的に向上させる10のアイデア

新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに働き方が大きく変わりました。多くの企業がテレワークを導入し、オンライン会議も一気に広がりました。この変化は半ば強制的なものでしたが、これまでの会議のやり方を見直し、未来の会議のあり方を実験するチャンスも与えてくれました。会議のニューノーマルはどのようなものになるのでしょうか。このガイドブックでは、会議のやり方を大きく変えて生産性を飛躍的に向上させる10のアイデアをご紹介します。

- #1 リモートファーストにする
- #2 ホワイトボードツールを使う
- #3 同期と非同期を分ける
- #4 ゲームでプロセスから解放する
- #5 ワークショップにする
- #6 発想ツールを使う
- #7 まず少人数で議論する
- #8 録画し、共有する
- #9 会議の前後もデザインする
- #10 参加する場所を変えてみる

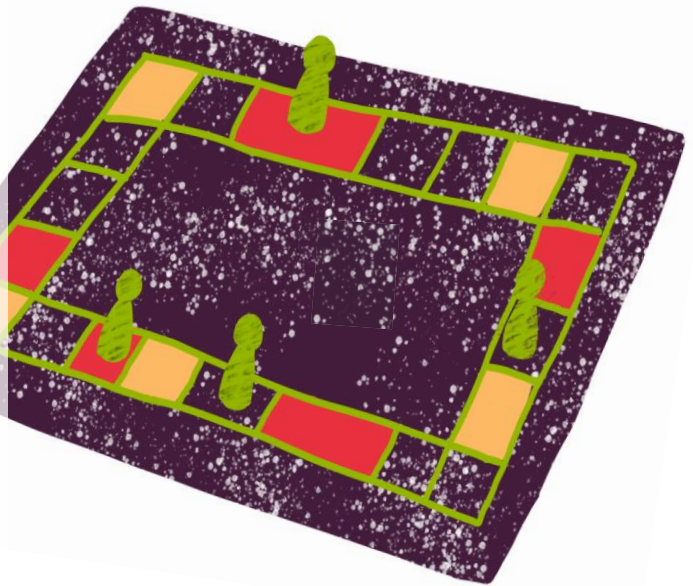
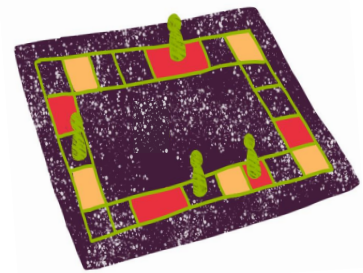


#1

mct

リモートファーストにする

リモートでも仕事ができるようにするリモートフレンドリー。しかし、リモートフレンドリーには問題があります。例えば、何人かがオフィスの会議室に集まり、何人かは自宅からリモートで会議に参加することがあります。リモートで会議に参加できるようにするだけでは、画面越しに会議室全体の様子を見ることができない、会議室のホワイトボードに書かれている字が読めない、会議室の人同士の会話に入っていけないなど、自宅からの参加者がストレスを感じる状況を作ってしまいます。そこで、リモートで働く人を中心に置いて、全員が公平に働けるようにするのが、リモートファーストです。会議なら、例えば、会議室から参加する参加者も一人一台のデバイスから参加するようにします。それだけで、全員が同じ条件で会議に参加できるようになります。リモートファーストは、災害など不測の事態への備えにもなります。リモートファーストで組織・チームの俊敏性や柔軟性を高めるのが、働き方のニューノーマルです。

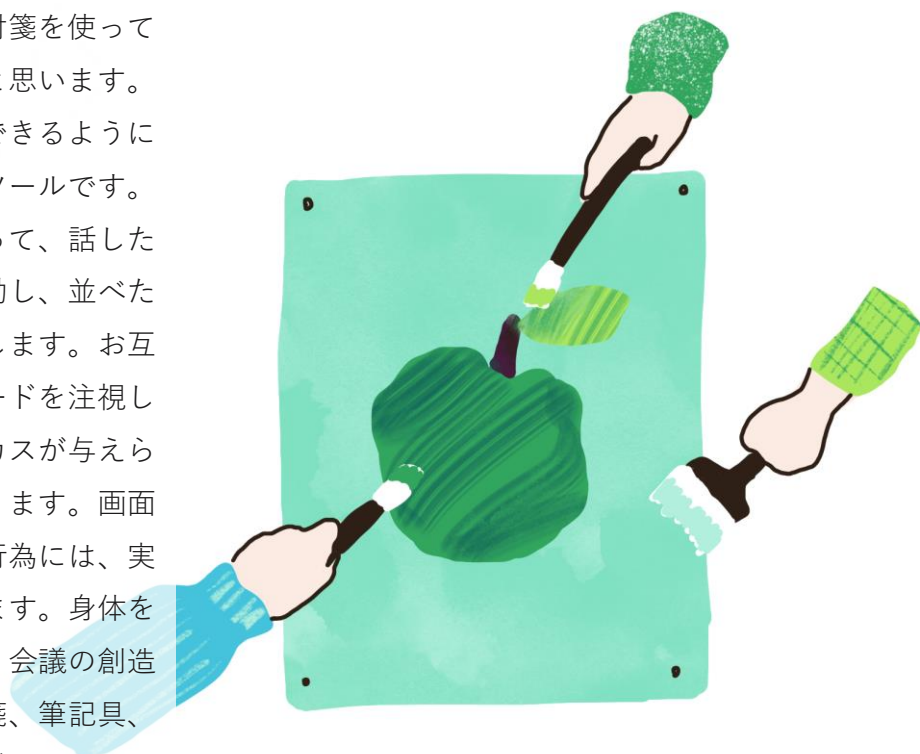


#2

mct

ホワイトボードツールを使う

会議でしばしば起こる議論の空中戦を避ける最良の方法は、議論を「見える化」することです。コロナ以前も、会議室で、ホワイトボードと付箋を使って会議を「見える化」することがあったと思います。同じことを、会議室に集まらなくてもできるようにするのが、オンラインホワイトボードツールです。オンラインホワイトボードツールを使って、話した内容をその場で付箋に書き起こし、移動し、並べたり直したりして、議論を「見える化」します。お互いの顔ではなく、ひとつのホワイトボードを注視しながら対話することで、議論にフォーカスが与えられ、全員が議論に集中できるようになります。画面上で付箋に書いたり、移動したりする行為には、実際に身体を動かすのと同じ効果があります。身体を使って考えることで、思考が活性化し、会議の創造性が高まります。ホワイトボード、付箋、筆記具、その他素材やテンプレートの一式をデジタル化したユーザーフレンドリーなツール。オンラインホワイトボードツールは、会議のニューノーマルを支える最強ツールだといえます。

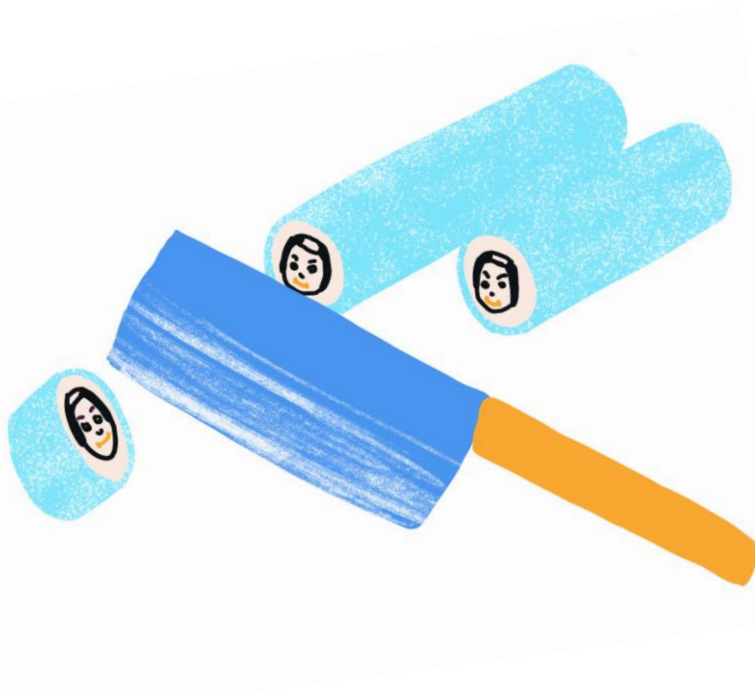


#3

mct

同期と非同期を分ける

会議、特にオンライン会議は、個人が熟考する作業には向いていません。一度にすべてをやり切ろうとするのではなく、会議を、個人が深く考えるべきパートと、集まって共有・評価・判断すべきパートに分けてみましょう。個人が深く考えるべきパートを会議から外して、それぞれが自分に合った時間にできるようにすることで、会議の効率や品質を改善することができます。物理的な会議では、会議室や什器を無制限に使ったり、会議の後に会議室をそのままの状態に残しておくことができませんでした。会議をその場でやり切るのが当たり前だったのは、物理的な制約があるからそうになっていた、という一面もあるのです。その点、オンラインホワイトボードツールを使えば、ホワイトボードを好きな数だけ、好きな時間に使って、いつまでも残しておくことができます。NotionやLoomといった非同期の共同作業を支えるその他のツールもあります。こういった技術のおかげで、ここ数年で会議の前提は大きく変わりました。これからは同期と非同期を組み合わせるのが、ニューノーマルな会議のやり方です。



#4

mct

ゲームでプロセスから解放する

いま、わたしたちの仕事の多くが、激しい変化に直面しています。会議も、「不確実で複雑な問題にどのように対処するか」といったレベルの議題が増えているのではないのでしょうか。不確実性の高い問題を取り扱う会議を、いつも通りの決まりきった「プロセス」で進めても、会議は盛り上がりませんし、新しいアイデアも出てきません。「プロセス」に欠けているもの。それは意外性や即興性です。会議が創造的にならないのは、会議の場の雰囲気を「プロセス」が支配しているからです。「プロセス」の場から参加者を解放するのが「ゲーム」です。「ゲーム」には、意外性や即興性があります。会議の中に「ゲーム」を組み込むことで、会議を即興的な場に変えてしまいましょう。「ゲーム」に集中することで、参加者は「プロセス」から解放され、そこに創造性の余地が生まれます。会議にゲームを組み込む方法はいくらでもあります。例えば、議題をクイズにしたり、穴埋め式の問題にして提示するだけでも効果があります。あなたは、会議をどんな「ゲーム」にすることができるでしょうか？



#5

mct

ワークショップにする

時間をかけても議論がまとまらないのは、例えば事実と意見が整理されずに議論されているなど、会議の進め方に問題があるのかもしれません。デザイン思考のステップを使って、会議をワークショップに仕立て直しましょう。

1. 事実を共有する
2. 事実からインサイトを得る
3. インサイトを使ってアイデアを出す
4. アイデアを評価し、合意する

4つのステップに沿って、会議をワークショップ形式にすると、散漫な会議の場が一気に共創的で創造的な場変わります。従来の進め方に慣れている人にとっては、決められたステップに沿って会議をするのは、一見すると、回りくどく、時間が余計にかかってしまうと感じてしまうかもしれません。しかし実際はワークショップ形式で進める方が、より短時間に、より深く問題を捉え、より創造的なアイデアが生まれることが多いのです。



#6

mct

発想ツールを使う

飛躍的なアイデアは、基本的に異質なモノの組み合わせから生まれます。しかし、表面的に近いモノを関連づけて考えることに慣れているわたしたちは、異質なモノの組み合わせを見つけるのが得意ではありません。そこで、強制的に異質なモノの組み合わせを考えるようにするのが、発想ツールです。発想ツールは、企画部門や研究開発部門のためだけのものではありません。オズボーンのチェックリストをご存知ですか？このチェックリストも、もともとは会議を創造的にするために考案されたものです。短時間に集中してたくさんアイデアを出したいときは、発想ツールを積極的に使いましょう。発想ツールを使えば、マンネリ化してしまっている会議を、メリハリのあるアイデアセッションに変えることができます。



#7

mct

まず少人数で議論する

毎回一部の人しか発言していない、そんな会議がよくあります。状況を変えるには、まずは小さなグループで議論し、その結果を大きなグループで議論するようにします。例えば、各自が一人で考えてきて、それをペアで共有し、議論する。次に、ペアでまとめた結論を小グループで議論し、まとめ直す。さらにその結果を全体で共有し、結論をまとめる。そんなやり方で発散と収束を繰り返し、段階的に議論を収束させていきます。全員に発言する機会を与えることで、これまでは発言されずに埋もれてきた、少数の重要な意見やアイデアを引き出すことができます。参加者の主体性も高まり、参加者相互の理解も深まります。段階的に導き出された結論は、全員にとって所有感のあるものになります。



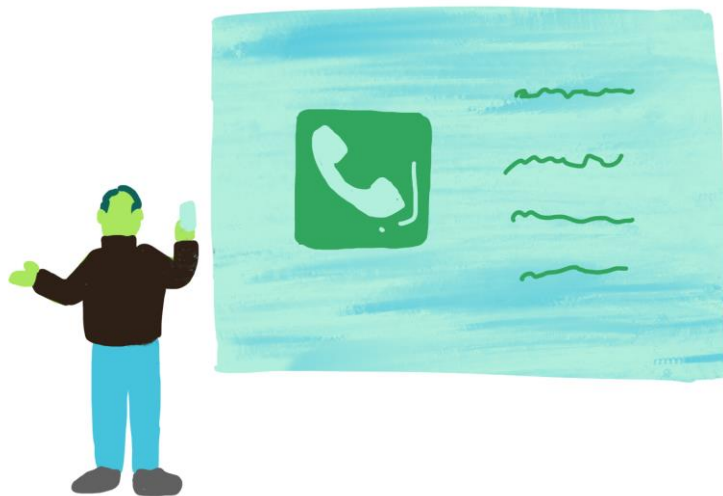
#8

mct

録画し、共有する

会議の参加人数が増えるほど、一人当たりの会議に貢献できる時間は減ってしまいます。議題に関係するからといって、毎回全員を集めて、その人たちの貴重な時間を費やすのは考えものです。会議に参加するメンバーを絞って、そのかわり、会議の内容を録画して、参加しない人が後から確認したり、コメントやアドバイスを残せるようにしましょう。

また、何らかのアクシデントで急に会議に参加できなくなってしまう、全員の日程が合わなくて開催日程がどんどん後ろにずれてしまう、といったこともよく起こります。参加できなくなる人が出てしまうことを想定して、事前に資料やその説明動画を共有したり、非同期でディスカッションできる場を提供しましょう。不測の事態も想定して、フレキシブルな参加のしかたを可能にするのが、会議のニューノーマルです。



#9

mct

会議の前後もデザインする

会議の内容を同期と非同期で分けたり、会議にゲームを取り入れたり、ワークショップ形式にしたり、発想ツールを使ったり、録画して共有できるようにしたり、それぞれの工夫にはそれ相応の準備が必要になります。会議で使う資料やテンプレートはもちろん、参加者へのインビテーションからフォローアップまで、会議の参加者がスムーズに、楽しく、主体的に参加できるように、会議の前後も含め、時間をかけてしっかりデザインしましょう。社内の会議だからといって準備を怠ると、その分さまざまな負荷が参加者にかかってきます。その結果、参加する人数分の時間やエネルギーを無駄にすることになってしまいます。会議の参加者を、パーティーに招く大切なゲストだと思ってください。ゲストのために楽しく、充実した時間になるように会議をデザインしましょう。



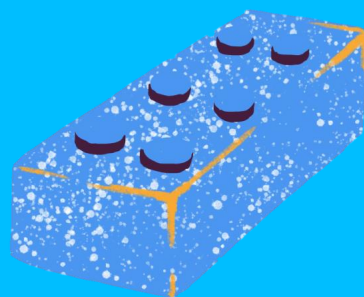
#10

mct

参加する場所を変えてみる

人の思考は場所の影響を大きく受けます。例えば、見晴らしいのいい場所は、大きなことを考えるのに適しています。はじめて体験する場所は、新しいことを考えるのに適しています。あなたの会社が、オフィスや自宅以外から会議に参加するのを許可しているなら、会議に参加する場所を変えてみましょう。近くの公園や景色のいい場所、ミーティング環境の整ったカフェやコ・ワーキングスペース、初めての旅行先。あなたの画面の背景を他の参加者と共有しましょう。いつもとは違う景色が、他の参加者へのプレゼントにもなります。





mctはデザイン思考を使って組織開発、人材開発、働き方改革をお手伝いします。
お問い合わせは以下のフォームよりご連絡ください。

<https://www.mctinc.jp/contact/>